

# 水道施設の耐震化 水道管路

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、各地で甚大な被害をもたらし、山武都市広域水道企業団の給水エリア内では、山武市及び横芝光町の給水区域が断水するなど、社会経済活動に与える影響が大きく水道事業に大きな課題を残し、改めてライフラインの重要性を認識させられました。

厚生労働省においても水道事業における耐震化の推進施策の一環として平成20年度から、全国の水道管や浄水施設など水道施設の耐震化状況を調査し、水道施設・管路の耐震化の促進に向けた水道事業者の取り組みを推進しています。

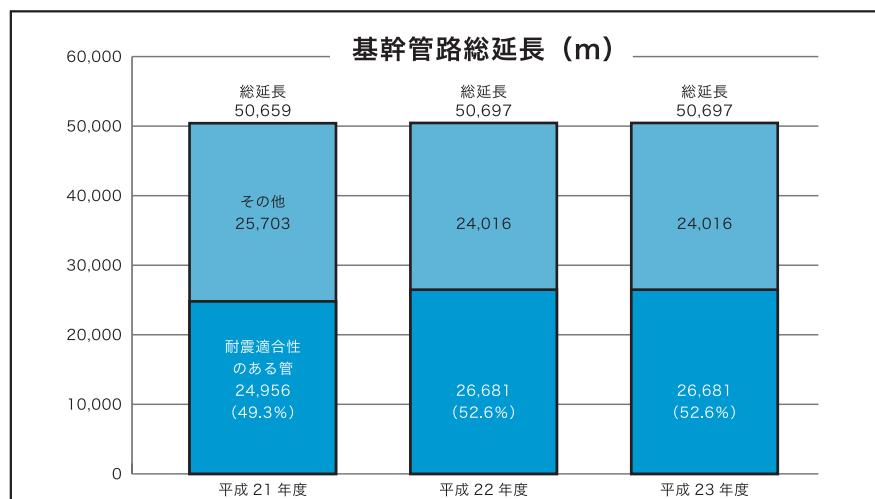
現在、山武都市広域水道企業団の管内全域に布設された配水管延長は、平成23年度末で約1,395kmとなり、そのうち基幹管路が約51kmとなっております。創設から38年を迎え、当時に布設した配水管の耐用年数が順次経過してきていることから、今後も計画的に老朽管の改良と管路の耐震化を進め、「災害に強い水道」をめざし取り組んでまいります。

企業団の現在における管路の耐震化状況は、下記のとおりです。

## 基幹管路及び耐震化率の推移

単位：(m)

年度	基幹管路 総延長	耐震適合性のある管の延長		耐震 適合率	耐震管の 割合
		耐震管の延長			
21	50,659	24,956	7,628	49.3%	15.1%
22	50,697	26,681	9,353	52.6%	18.4%
23	50,697	26,681	9,353	52.6%	18.4%



耐震化された水道管 (NS型ダクタイル鉄管)

「一般社団法人日本ダクタイル鉄管協会」提供

## 注)基幹管路の耐震適合性について

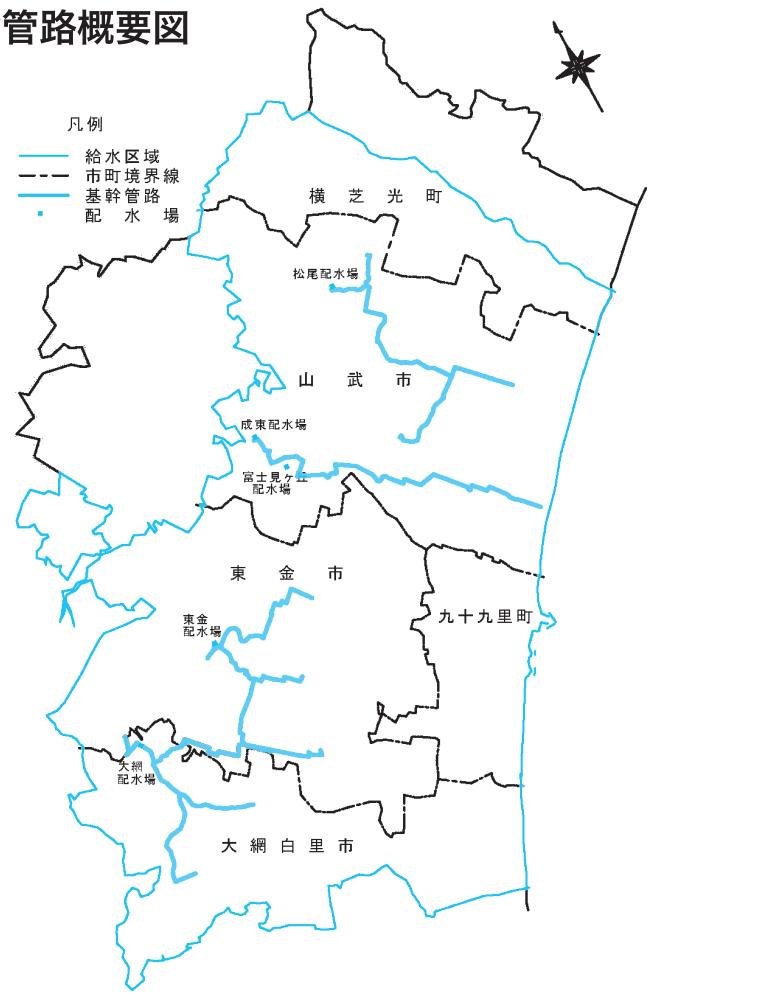
基幹管路=口径350mm以上の配水管としています。

耐震管=地震の際でも継ぎ目の接合部分が離脱しない構造となっている管のこと。

耐震適合性のある管=耐震管以外でも耐震性能があると評価できる管があり、それらを耐震管に加えたもので各水道事業者がそれぞれの地盤等の管路の布設条件に基づき判断している。

管路の耐震適合率=耐震適合性のある管路延長／管路総延長

## 基幹管路概要図



## 災害に備えましょう

### ■日頃の備え

地震で水道施設が被害を受けると、飲料水はもとより生活用水(トイレ等)の確保は大きな問題となります。

#### <飲料水の備蓄>

日頃から、いざというために、ご家庭でくみ置きをお願いします。

人間が生きてゆくために必要な飲料水は、1人1日3リットルとされており、ご家庭で簡単にできる飲料水の備蓄方法のひとつとして「くみ置き水」があります。くみ置き水は、密閉できる容器に口元いっぱいまで水を入れ、日の当たらない涼しい所に保管してください。万一に備えて、3日程度の水のくみ置きを心がけましょう。

また、水道水には消毒のための塩素が含まれており、この塩素は保管条件によって違いますが1日～2日程度でなくなってしまいますので2日に一度くらいで入れ替えるようお願いします。なお、入れ替え時の際に、くみ置きしておいた水をそのまま飲むことはおやめください。入れ替え時の水は、掃除や洗濯などにご利用ください。

#### <水のため置き>

お風呂の残り水は、トイレなどの雑用水や初期消火に役立ちますので、日頃から「ため置き」されることをおすすめします。

#### <地震や災害の時は、水道の蛇口もしめましょう>

地震などで断水になり、再び水道が復旧した時は、家の中が水浸しになるのを防ぐため蛇口もしめましょう。

#### <ポリタンク等の容器の準備>

断水になった場合、給水車等で給水しますので、飲料水をいれるポリタンク等の容器を日頃から準備しておきましょう。

日頃から、避難場所や持ち出し品の準備等、防災対策についてご家庭で話し合いましょう。

